

3. 補修工事

3.1 既往補修状況

漏水に対する既往補修として、図 3.1 に示す箇所で樹脂注入工等が実施された。注入工法の概要を図 3.2 に示す。これらの対策箇所の現状(平成 12 年 11 月)を、写真 3.1～3 に示す。

これによると、水平打継目にはエポキシ樹脂系注入剤により止水工事を行った跡(白い線状＝エポキシ樹脂：灰色がかったもの＝モルタル)が確認される。この箇所の止水工事は平成 7 年度に工事が実施されているが、現在では部分的に剥がれ落ちたり、浮上ったりしている箇所がある。エポキシ樹脂が剥がれる要因としては、材料自体の硬化収縮や劣化、コンクリート表面の温度変化による目地の伸縮や膨張によることが考えられる。なお、現在のエポキシ樹脂の状況を見ると、規則的な亀裂の発生が認められることから、材料自体の硬化収縮の影響が大きいものと考えられる。

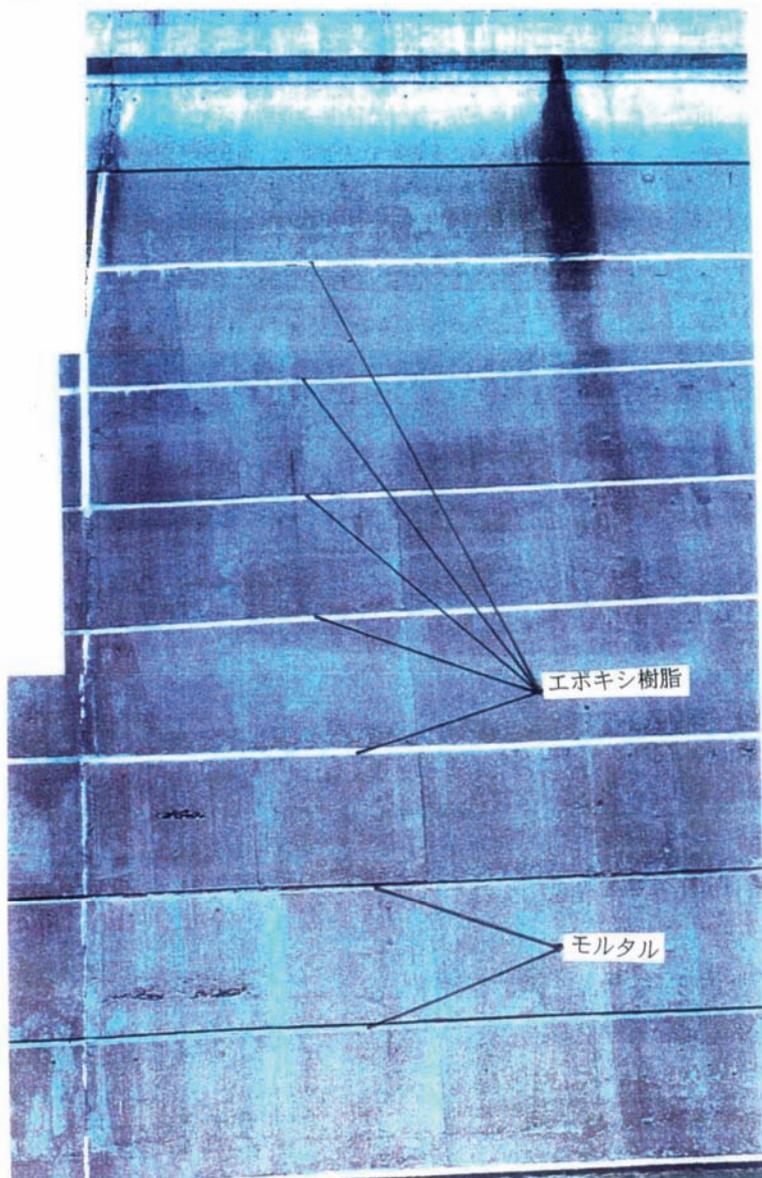


写真 3.1 既往補修箇所の現状 (平成 12 年 11 月)

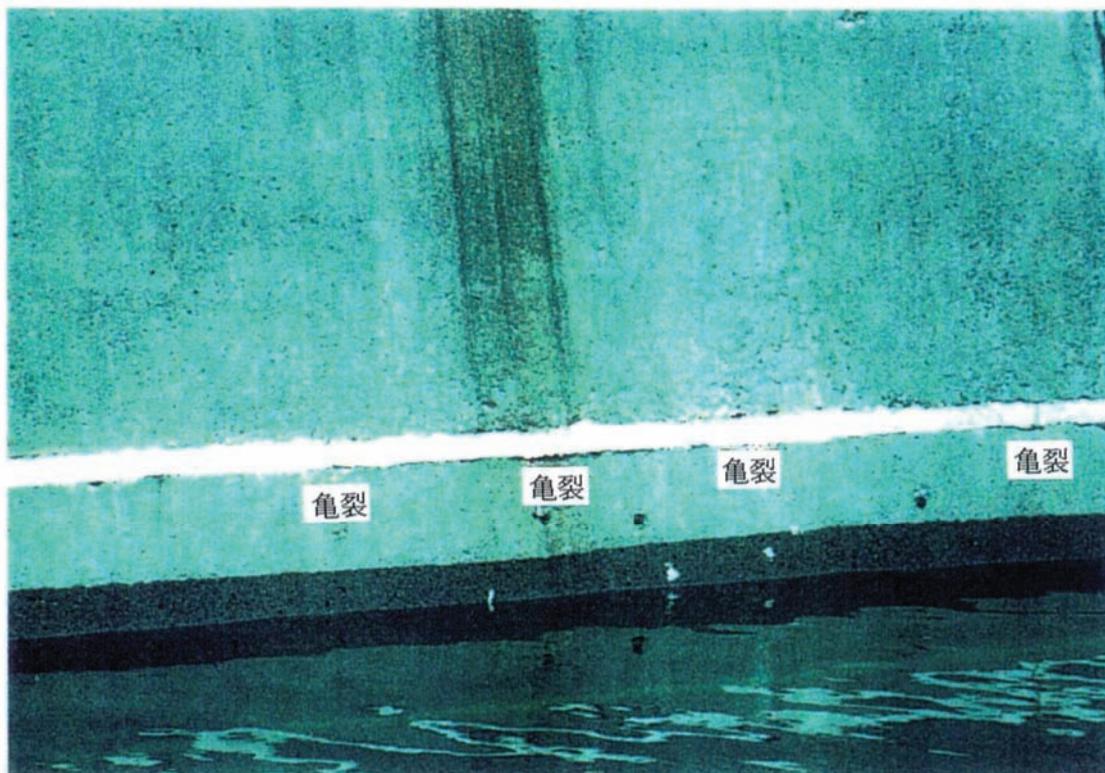


写真 3.2 既往補修箇所現状（平成 12 年 11 月）9BL EL.472m

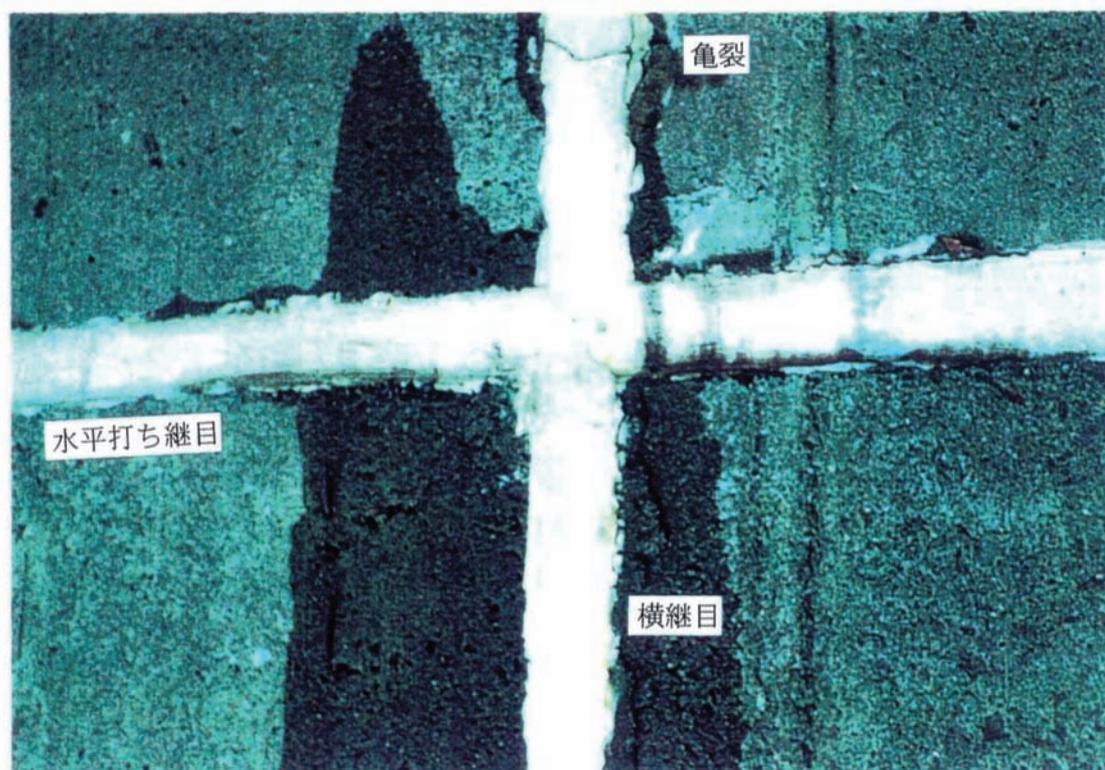


写真 3.3 既往補修箇所現状（平成 12 年 11 月）15BL EL.472m